



就職・転職
特集
2018

語学力、キャリアを磨き オーストラリア/日本で「働く」

今後のキャリアのために語学力アップや資格取得を目的に来豪した人、オーストラリア国内または別の国、日本に帰国し就職・転職を考えている人も多いのではないだろうか。本特集では、将来の可能性を模索している人に向け、日豪両国での就職に必要な準備や採用動向などについて専門家のアドバイスと共に紹介する。

取材協力・監修：BBIジャパセンセンターオーストラリア大橋賢一さん、
スタッフソリューション オーストラリア シドニー本店（五十音順）

語学力アップ、資格取得

仕事に必要な英語力を高める

語学学習を目的に来豪する人も多いが、効率的に学ぶためには自分が最終的にどのレベルの英語力に到達したいのか、あらかじめ目標を定めておく必要があるだろう。ひとことで「英語力を生かして働く」と言っても、①オーストラリアで働く、②日本にある一般企業/外資系企業で働く、③日本で英語を教える、④他の国で働くなど、将来のビジョンを明確にすることでオーストラリアでの英語学習の目的が絞りがすくなるはずだ。

専門性を身に着ける

初めて就職活動をする人、これまでの職種や業界からのキャリア・チェンジを考える人は、専門的・実践的なスキルを身に付けておくことも重要だ。オーストラリアでは、VET (Vocational Education and Training) と呼ばれる就職や高等教育機関への進学に役立つ職業教育訓練を受け、コースの修了資格を取得して仕事に役立てることが可能だ。この資格を提供しているのが、TAFE (ティフ、Technical and Further Education/職業訓練専門学校) と呼ばれる政府機関と、民間の専門学校 (カレッジ)。実社会のニーズに基づいた専門知識や技術が得られ、講師陣も各業

界での実務経験者が多い。コースによってはインターンシップを含むものもあり、就職を目指して知識と経験の両方を得ることができる点が強みだ。VETの学位はレベルに応じてサーティフィケート1~4、ディプロマなどがあり、受講期間は学位により数カ月から3年までと大きく異なる。

TAFEなどの専門学校で学べるジャンルは幅広いので、興味や人材の募集状況などを考慮して慎重に選択したい。ビジネス (会計、金融、マネジメント、マーケティングなど)、IT、建築、エンジニアリング (航空、自動車、土木工学、海洋技術など)、チャイルド・ケアや高齢者介護、医学、看護学、フィットネス、アート (演劇、ファッション、ウェブ・デザイン、写真など)、メディア関連、ホスピタリティー (調理、旅行業など)、農業やワイン製造など、実にさまざまなコースが用意されている。

専門学校で学ぶ場合、コース選び、成績証明書 (英文) などの必要書類の準備も含め、手続きは余裕を持って半年前から進めるのがスムーズ。人気のあるコースは定員に達し次第締め切られるため、早めの手続きが必要だ。

J-SHINE、TECSOL、TESOL

「英語を教えること」を仕事にしたい人は、オーストラリアで以下のような資格取得のためのコースを受講することができる。教える対象や内容により資格の種類が異なるので事前にしっかり確認しよう。

●J-SHINE

小学校英語指導者資格。日本の小学校英語指導者認定協議会が、英語指導者の養成のために定めたものだ。受講し資格を取得すると、日本の小学校や英会話教室の児童コースでの就労が可能。

●TECSOL

「Teaching English to Child

Speakers of Other Languages」の略称で、12歳未満の子どもに「英語を使って英語を教える」ための資格。世界的に認められている資格で、アクティビティーなどを通して楽しく英語を教える方法を習得する。

●TESOL

「Teaching English to Speakers of Other Languages」の略称で、12歳以上の子どもや大人に「英語を使って英語を教える」ための資格。実践的なコミュニケーション力を養う指導者向けで、TECSOLより高度な言語理論などを習得する。世界的に認められている資格。

オーストラリアで使う資格

仕事に就く際、職務経験が重要視されるオーストラリア。職種によっては経験に加えて有資格者であることが必須の場合があるが、未経験のジャンルの仕事に就こうと考えるのであれば、なおさら自己アピールのためにも資格取得は有効と言えるだろう。以下のような資格は、民間のカレッジなどで数日間のコースを受講して取ることができる。

オーストラリアで使える資格の例

●RSA (Responsible Service of Alcohol)

アルコール飲料を扱う飲食店 (バー、レストランなど) で必要とされる資格。この資格を持たずに顧客に酒類を提供することは法律で禁止されている。

●バリスタ

エスプレッソを始めとするコーヒーをいれる上で専門的な知識を持つバリスタは、広く世界で通用する資格。中にはラテ・アートを習いたいという理由で始める人も多い。政府公認の証明書と各学校発行の証明書がある。

英語を生かし実務経験を積む

また、オーストラリアで働くためには、電話での対応やメールの返信などの英語力が必須となる。そして資格取得よりも実務が重視されるので資格を取るだけではなく、インターンシップや知人の会社を手伝うなど、実務経験を積んでおくと、より一層就職の確率は高まる。就職後は、ミーティングやプレゼンテーション、交渉はもちろん資料作成など全て英語で対応できる高い英語力が必要とされるため、ローカル企業はもちろん、日系企業に就職する際でも求められる基本的スキルを磨くために積極的に行動することが大切だ。

日本で就職に求められる英語

近年、日本の企業が求めているのは、外国人と渡り合うことができる「グローバル人材」だと言われている。これは、英語などの外国語を操ることはもちろん、外国人のものの考え方、仕事の進め方などを知っていること、彼らと分け隔てなくコミュニケーションが取れること、そして日本の仕事の風習、習慣をきちんと理解している人材だ。

その背景には、日本の雇用形態が外国人労働者に頼らざるを得ない環境になってきていることと、外国に進出する企業の増加という実情がある。従って、日本においては外国人を指導できる人材が求められ、海外においては外国人と一緒に働くことができる能力が求められる。

そして、日本に帰国し就職する際、書類選考や面接時に必須なのがTOEICと言われている。履歴書に書けるのは最低600点以上、英語の職場環境や外資系で働くのであれば最低730点以上が必要とされている。また、就職後英語を使う部署で働くのなら、留学中に、ケンブリッジ検定FCEレベル以上、BULATS、ビジネス英語コースなどを受講しておくとも良いだろう。



140 years Berlitz®
1878-2018

お問い合わせの際は、「日豪プレス」の広告を見た」と言って下さい!

AUTUMN SPECIAL!!

10 Lessons Starter Pack

10レッスンお試しコース!! 平日昼間 **\$499**

10レッスン終了後、ご継続の際は通常料金から **25%引き**

Business English 20レッスンパッケージ

平日17:30~21:15 or
土曜8:30~13:00

(限定で自由予約制)

\$1,040!!!

通常料金から **25%引き**

※別途入学金・教材費・GSTが必要です

日本語で
お問い合わせください

ベルリッツ・オーストラリア **1300-118-881**

無料体験・お問い合わせはテシガハラ タカコ takako@berlitz.com.au

日本で働く

オーストラリアから日本へ

オーストラリアでの語学留学や職務経験をjから、日本での就職を考える人も多いだろう。日本へ戻って就職活動を開始する予定だった人も、オーストラリアでの体験を踏まえて、どのように動き出すべきか戸惑うこともあるかもしれない。

海外にいても、帰国前からオンラインの就職支援サービスに登録して情報収集を開始したり、今後のキャリア形成について相談をすることも可能だ。また、帰国後の就職を希望する人のための海外での合同企業説明会などもあるので、こうした情報をしっかりキャッチできるようにアンテナを張りめぐらせておこう。



日本企業が求める人材

現在、日本の企業はグローバル人材を求めていると言われている。グローバル人材とは一般的に、「英語など多言語が操れる」「外国人の仕事の仕方やものの考え方に触れ、それを知っている」「しっかりと日本人としてのアイデンティティを持っている」ことだ。そして、グローバル人材であるかどうかを判断する基準として企業が重点を置くのが、①TOEIC730点以上(最低600点以上)、②英語環境での職場経験の有無、③ビジネスレベルでの実践英語力などが挙げられる。つまり、履歴書に上記の内容を書くことができると、グローバル人材候補として、企業が注目してくれる。



日本でグローバル人材が求められる背景として、海外に進出する日本企業が増えていることや、逆ピラミッド型の人口構成から外国人労働者に頼らざるを得ない日本の社会現象などがある。また、2020年に開催される東京五輪などを含め、訪日旅行者の増加が予想されることや、外国人や外資系企業の日本進出もあり、その環境で活躍できる人材が必要とされる。

日本では、既に外国人労働者のみがサービスを提供する店舗なども増えており、彼らに日本のサービスやマナー、習慣を教える人材も必要とされている。そういった人材は外国人の文化や言語、仕事に対する姿勢を知っていること、そしてもちろん日本でのビジネスマナーなどを理解していることが重要だ。外国人労働者に対しても上手に指導できる人物像が、今後ますます求められると言われている。

海外留学経験があると、グローバル人材になり得る環境下に身を置いているとも考えられるが、それを意識し、スキルなどを身に付けていかない限り、企業に期待される人材にはなり得ないため、注意が必要だ。留学経験を生かし、計画的に就職に向けて、自身を築き上げていくことがとても重要となる。

留学経験者の強みの生かし方

海外での経験と日本社会の独特なビジネス・マナーの両方を理解している人材は、日本企業でも求められている。特に日本で就職する場合、長期採用を考える企業が多く、経験がなくても必要な知識は入社してから教えるという考えの企業も多数ある。日本のビジネスのノウハウを持ち、海外のビジネスのノウハウも心得、そして英語力のみではない経験、コミュニケーション力、苦境に立った時に対処できる人間性などを持つ人材であれば、将来が期待されるだろう。

オーストラリアでは、自信を持って話すこと、できることを伝えることが必要とされる一方、日本では、協調性を求める場合が多いため、自信を持つことは大切だが、過剰に伝えすぎると自己主張が強いと捉えられマイナス評価につながることもあり得る。

英語ができることだけをアピールしても、直接評価につながらない可能性もある。英語は単なるツールであって、いかに会社に貢献できるような人物であるか、スキルや知識を兼ね備えているか、そしてチームワークを持って働くことができるかなどが重要視されるため、その点に気を付けて臨む必要がある。

また、留学中はオーストラリア人を含め、多くの外国人との英語でのコミュニケーションはもちろん、異文化や多国籍の人びとの習慣や土地柄などを知る機会も多い。これらの経験は、コミュニケーション

能力の向上や、自国である日本を改めて理解することにもつながる。就職活動時、そういった能力を生かせる職業として、ホテル・旅行業やホスピタリティーなどのサービス業界や秘書、そして外国人を指導する人事部なども候補として挙がってくるのではないだろうか。



具体的なプランの立て方

日本に帰国後、就きたい職業など明確な目標があるのであれば、留学中にどんなことを身に付けておくと良いのか、しっかりとプランを立てることが重要だ。限られた時間の中で目標を達成するためにも、帰国予定日から逆算してプランを立てよう。

一般的に就職に必要な中・上級程度の英語力を付けるためには、8~16週間程度語学学校に通う必要があると言われている。その上で英語環境での職場経験(インターンシップ)を4~12週間程度するのが理想的だ。また、必要に応じてビジネスレベルの英語が学習できるコース(ケンブリッジ検定など、10週間程度)を受講したり、TOEICで高得点を取得するために、

2~4週間程度の学習時間を設けると良いだろう。

そして、授業料などの費用を工面するためのアルバイトに要する時間などもしっかりとプランに加えておこう。これらの計画を実行するには、最低でも半年から1年は掛かるため、計画的に進めることが望ましい。

また、人材派遣登録会社への登録も少なくとも就職する半年前くらいにしておくとう良い。登録をすることにより、無料で就職活動に向けてのエントリー・シートの書き方などのアドバイスや具体的なプランを立てるためのサポートをしてくれる所もある。多くの求人情報を送ってもらえるため、さまざまな情報を入手できるもの利点だ。

2018の採用動向

今後も、グローバル人材が活躍できる職場が増え続けると予測される。特に東京五輪開催などに向け、インバウンドの旅行業関連や、日本酒を醸造している企業など、日本の匠の技術を海外に輸出・販売する企業などがそういった人材を希望している動向があると言われている。



専門家からのアドバイス!

(取材協力: BBIジャパセンセンターオーストラリア/大橋賢一さん)

就職活動をする上で、履歴書とエントリー・シートの書き方は重要な要素となります。エントリー・シートの表現内容が不十分であると、実力があっても書類選考ではねられる可能性があるためです。また、逆に言うとう書き方によっては面接など次のステップへの確率を上げることもできます。

書き方の重要なポイントは、単に「〇〇で〇〇として働いていた」と記入するのではなく、具体的に何をしていたのか、応募先の企業が求める人材像を意識しながら簡潔に書くことです。例えば、日本食レストランでアルバイトをしていたとして、オーストラリア人のお客さんにメニューの内容

が分かるように英語での説明を工夫した、毎日就業開始前にミーティングを行い、各スタッフにその日の対応方法などを英語で指示していたなど、具体的に書くとう良いでしょう。このように具体的な表現をすることによって、いかに外国人と関わっていたか、外国人の対応をしていたかを、相手にイメージしてもらえるようになります。そして、どのように英語でコミュニケーションを取っていたかなどということを知りやすく書くことによって、英語を使った実践的な対応能力があるという評価にもつながりやすくなります。当然、エントリー・シートにそのような内容を書くためには実際に語学力を高める訓練、そして多くの経験を積むことが不可欠です。また、就職を希望する企業に貢献できることを示せる表現内容にすることも必要となってきます。



留学を生かした就職へ
帰国後、英語環境で働くわたしになる!

生かせ日本人スキル



ジャパセンは、真の国際人を育成する会社です

Japan Centre Australia
英語求人ナビオーストラリア総代理店

帰国後、英語環境で働く仕事に特化した人材紹介です。今、日本の企業は外国人と渡り合える人材を必要としています。従って、その人材になるために、留学中に何をすべきかプラン立てが重要です。ジャパセンは TOEIC 公式テストセンター、海外職場経験のインターンシップ手配専門なので就職サポート含めて必要な事が全て対応できます。

ジャパセン 就職

まずは無料登録から!!

TEL : 02-9267-4002
Email : info@japancentre-au.com
http://www.japancentre-au.com/
Suite 3.03, 39 Liverpool Street,
Sydney, NSW 2000